

第二十五号（令和八年二月）

伊藤ひろし県議会報告

災害拠点病院、水道管路の耐震化を急げ

～千葉県総合救急災害医療センター～

「管路の未耐震区間 あと八十メートル」

医療施設につながる水道管路の耐震化は、災害対応力を左右する重要な基盤で、私は「命を守るインフラ整備」と認識しており、最優先で取り組むべき課題と考えます。



特に、基幹災害拠点病院に指定されている「千葉県総合救急災害医療センター」（千葉市美浜区豊砂・埋め立て地区）は、被災者の受け入れに加え、全国から派遣される医療チームの受け入れ、消防・警察と連携・調整を担う、まさに災害医療の司令塔とも言える存在です。

【問題提起】

首都直下地震や南海トラフ地震など、大規模災害の発生が現実的な脅威として指摘されております。このセンターに「水」が供給されなければ、医療活動はもちろん、衛生管理や感染症予防にも重大な支障をきたし、県民の命を守る機能が損なわれると考えます。

※県営水道給水区域内の六十九施設を指定して、施設につながる管路の耐震化を整備中

【お伝えしたいこと】

災害拠点病院など、最重要給水施設を一刻も早く耐震化を完了させます。